航海概要報告書

（クルーズサマリー）

1.　航海情報

1.1　航海番号：　NT10-15

1.2　船舶名：　なつしま

1.3　航海名称：　平成 22 年度　「ハイパードルフィン」調査潜航

1.4　首席研究者：　三輪哲也［海洋研究開発機構］

1.5　課題代表研究者：　他谷 康（事業推進部長・兼務広報課長）

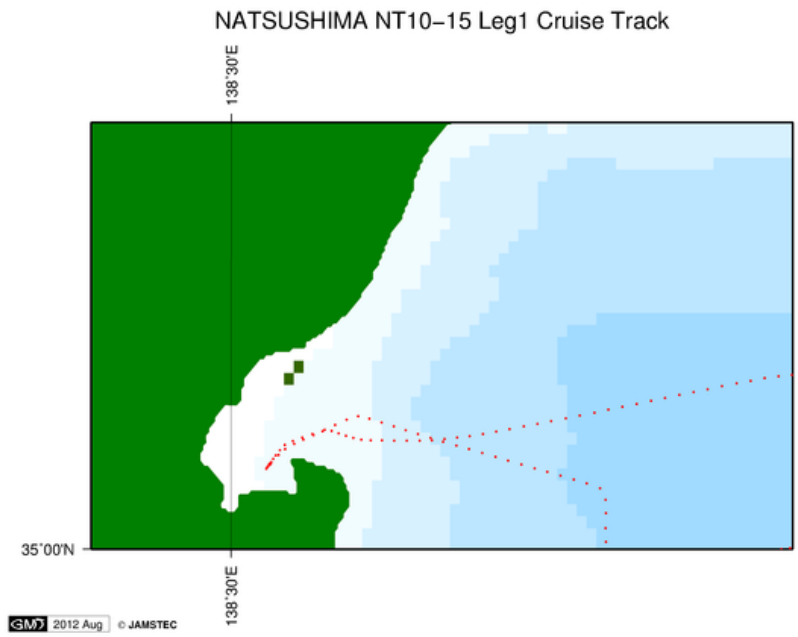
課 題 名 ：「映像素材撮影用潜航」及び「博物館・水族館との広報連携航海」

1.6　航海期間:　平成 22 年 8 月 18 日～平成 22 年 8 月 25 日　8 日間

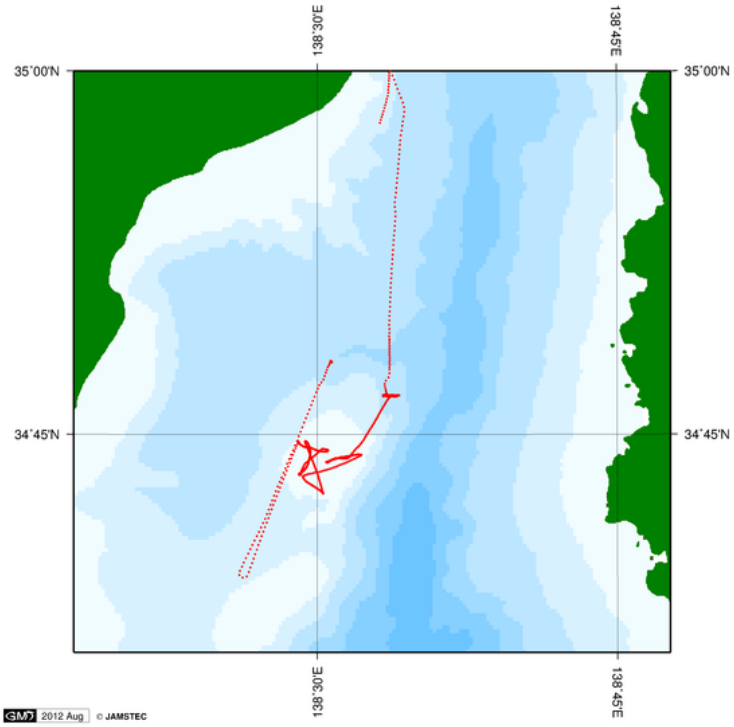
1.7　出港地～帰港地:　清水港(出港)ー横須賀港 JAMSTEC(帰港)

1.8　調査海域名:　駿河湾　相模湾

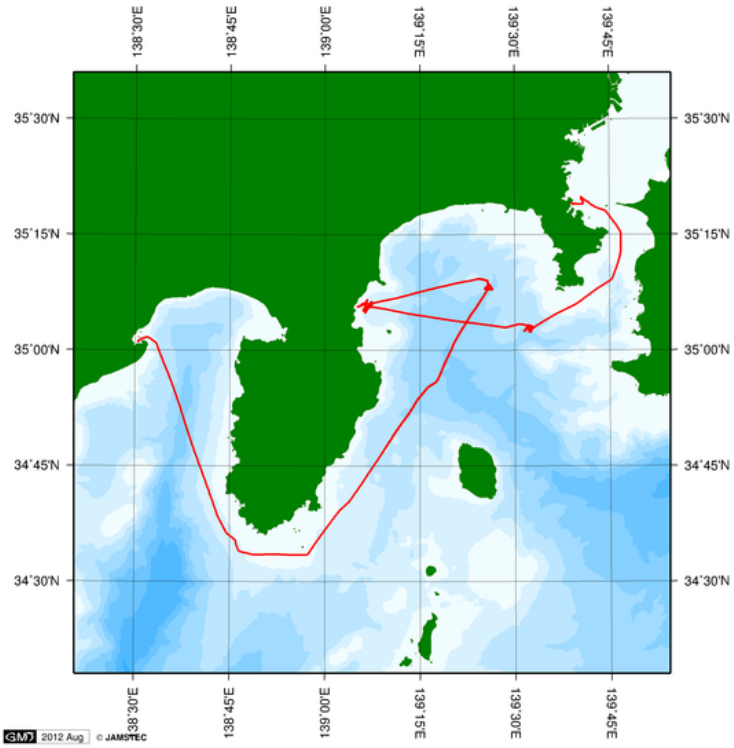
調査マップ



NATSUSHIMA NT10−15 Leg2 Cruise Track



NATSUSHIMA NT10−15 Leg3 Cruise Track



2.　実施内容

本航海では、広報用映像素材を取得するための撮影と、博物館・水族館との広報連携を図るため、３つLeg.に分けて、下記4テーマに沿って実施した。

<テーマ1>　映像素材撮影協力者として、応募のあった日本放送協会（以下、NHK）を選定した。　駿河湾海域の中層から底層にすむ深海生物の貴重な生態を、高度な技術と最先端機材を用いて記録した。

ハイパードルフィンに搭載している高感度ハイビジョンカメラ「Super Harp」を活用し、高品位映像記録した。また、人工照明下では、なかなか出現しない深海ザメを、音響カメラを用いて撮影し、深海ザメのこれまで撮影されていない自然な行動の観察記録を目指した。

<テーマ２>　映像素材撮影協力者として、応募のあったTBSテレビを選定した。深海ザメおよび深海生物を調査・撮影し、「飛び出せ!科学くん」の企画番組内において放送するとともに、日本近海（駿河湾）が世界有数の深海生物の宝庫であることを紹介した。

<テーマ３>　広報用映像素材および展示用サンプル（岩石等）の採取を目的とした。また、近隣博物館、水族館学芸員等の乗船により、機構業務の理解促進と、より一層の連携強化を図った。本航海の成果は、当機構においてのみならず、各館において企画展等でのアウトリーチ展開を目指した。

<テーマ４>　ホームページで募集し、選定された実験アイデアについて、応募した個人またはグループにハイパードルフィンのペイロードベイの一部を開放して実験を行った。各Leg.共通でハイパードルフィンのペイロードベイの一部（公募上は30㎝立方）を使用して実施した。